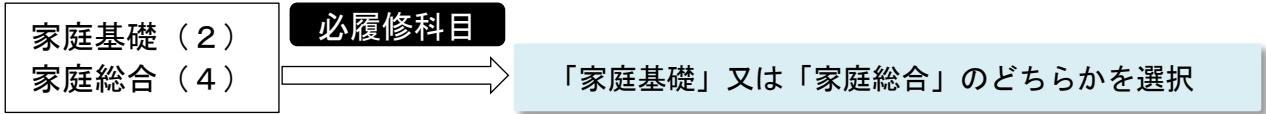


(9) 家 庭

1 設置科目及び履修要件 (カッコ内は標準単位数)



2 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することをめざす。

ここがポイント!

生活の営みに係る見方・考え方については、全ての内容に共通する視点であり、相互に関わり合うものであるため、生徒の発達の段階を踏まえるとともに、いずれの視点を重視するのかを適切に定めることが大切となる。

3 各科目の内容

家庭基礎	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 C 持続可能な消費生活・環境	B 衣食住の生活の自立と設計 D ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動
家庭総合	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 C 持続可能な消費生活・環境	B 衣食住の生活の科学と文化 D ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動

4 各科目の履修に関する配慮事項

- 「家庭基礎」は同一年次で履修すること。
- 「家庭基礎」「家庭総合」のどちらの科目においても、「C 持続可能な消費生活・環境」を第1学年又は第2学年のうちに履修すること。
- 「家庭総合」を複数の年次にわたって分割して履修する場合には、原則として連続する2か年において履修すること。
- 「家庭基礎」「家庭総合」の各教科に配当する総授業時数のうち、原則として10分の5以上を実験・実習に配当すること。

5 小・中学校との系統性

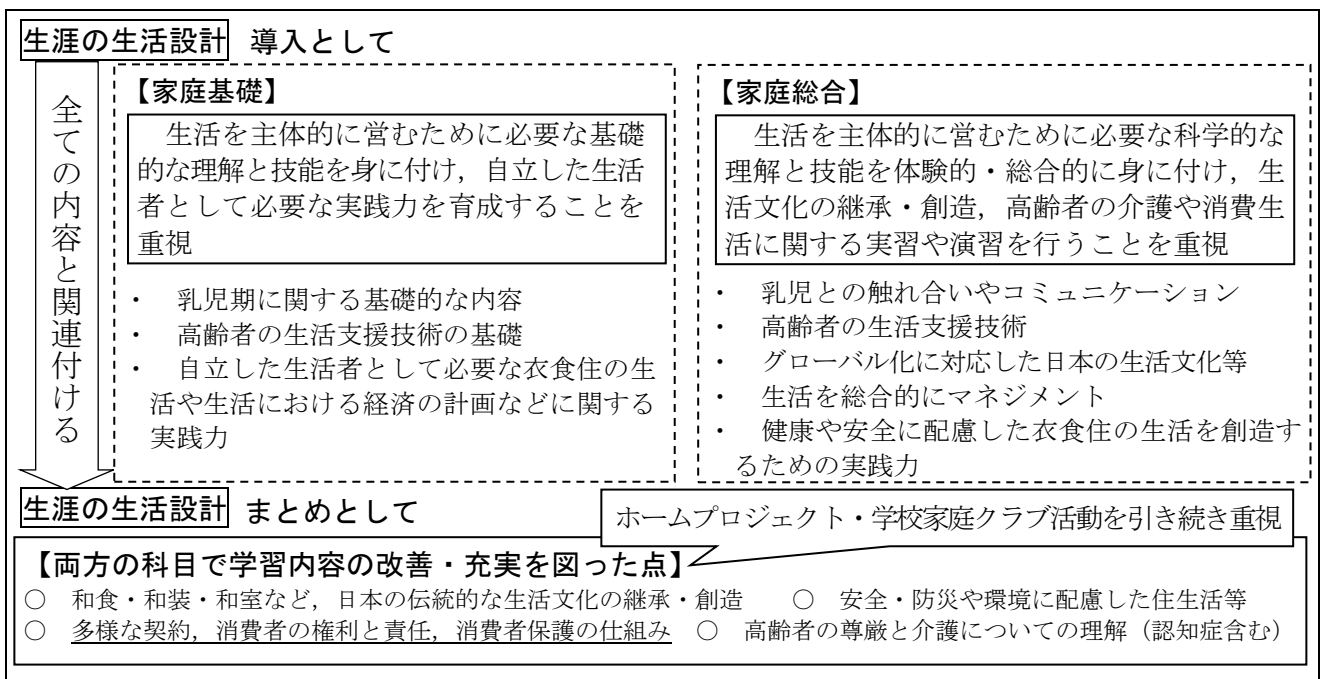
	小学校	中学校	高等学校
目標	生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成	よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力の育成	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成
空間軸	自己・家庭	家庭・地域	家庭・地域・社会
時間軸	これまでの生活・現在	現在・これからの生活	生涯を見通した生活
内容構成	小学校、中学校、高等学校ともに、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活と環境」に関する三つの内容で整理し、系統性を明確化。		

6 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業の創造

「何ができるようになるか」～家庭科において育成をめざす資質・能力～

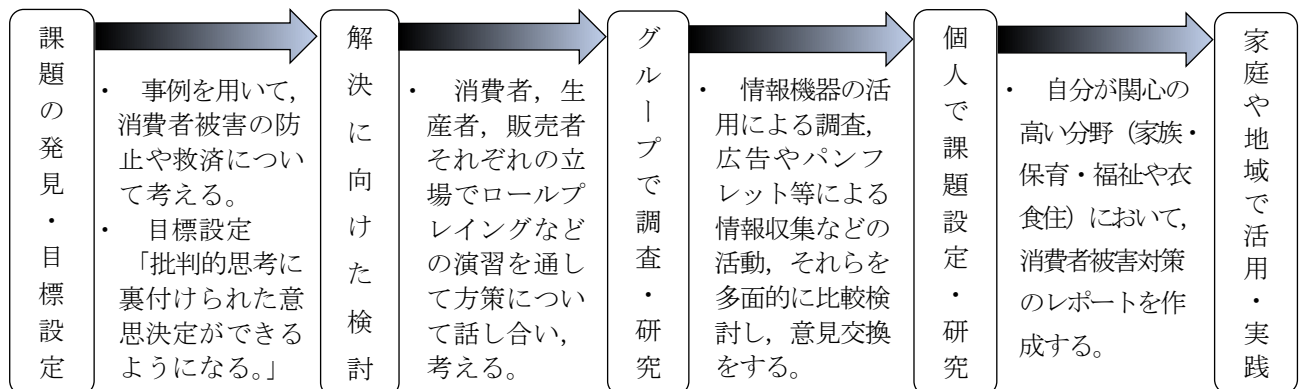
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解 家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解及び技能
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとする実践的な態度 自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度

「何を学ぶか」～家庭科において重視する学習内容・学習活動～



「どのように学ぶか」～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業実践の例】「消費行動と意思決定」



【授業改善の視点】 生徒が自分の考えを伝えたり、話し合ったりすることで、思考が深まり、家庭や地域での生活に生かしてみたいと自覚できるような授業内容となっているか。